

防災マップづくりに必要なもの

地図

みなさんの自宅が分かるような地図を用意してください。市役所、町村役場にご相談ください。
(地図は住宅地図や都市計画図等が便利です)

透明ビニールシート・粘着テープ

地図上に重ねて、ビニールシートに書き込みをすると、間違えたときなど、後で消しやすく便利です。

ペン(油性・水性)、除光液

地図の上に広げたビニールシートに書き込みをします。色の違うペンを用意して、避難路、ブロック塀などを色分けしてしるしをつけたり、なぞったりします。除光液は、油性ペンでの書き込みを消すのに役立ちます。

色つきシール

地図の上に広げたビニールシートに貼ってゆきます。みなさんの自宅や避難所、防災設備などに色分けして貼ってください。

紐・ものさし

避難場所までの距離などを測るときに使います。目盛りのついた紐ならば、曲がった道も測ることができます。



(参考)

宮城県沖地震の発生確率(平成18年1月1日現在)
10年後までの発生確率 50%程度
20年後までの発生確率 90%程度
30年後までの発生確率 99%

(地震調査研究推進本部発表)

いろいろな防災マップ

防災マップづくりは、既に自発的に取り込んでいる地域もあり、地域の特徴を盛り込んだ様々な防災マップが作られています。

宮城県では、更に防災マップ作りに取り組んで頂くため、2004年度に女川町・名取市・亶理町を対象に防災マップづくりのモデル事業を実施し、今回、防災マップづくりガイドラインを作製しました。



【第一回】

防災マップづくりの必要性や災害について学びました。



【第二回】

防災マップづくりに先立ち、参加者全員で地域の防災施設や危険箇所の確認を行いました。



【第三回】

地図を作ります。今までの災害経験や地域の特徴、第二回で確認した、地域情報を書き込んでいきましょう。

皆さんはご自宅から決められた避難場所まで、危険な場所を通らずに行くことが可能ですか？ 防災マップづくりを通し、確認や解決策を地域で議論してみましょう。

防災マップづくりに関するお問い合わせは、みなさまの市町村の防災担当または宮城県まで・・・

宮城県総務部危機対策課

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号

【TEL】022-211-2376

【FAX】022-211-2398

【E-mail】 kiki@pref.miyagi.jp

【URL】 <http://www.pref.miyagi.jp/kikitaisaku/>

危機対策課ホームページで詳しいマップの作り方を公開しています。

2006年3月発行

みやぎ

住民参加型防災マップ作成

ガイドライン

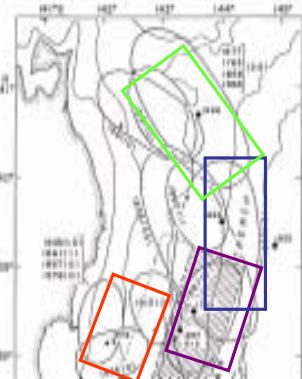
～ 迫り来る宮城県沖地震に備えて～



宮城県

宮城県沖地震に備えましょう！

宮城県沖は、太平洋プレートが陸地の下に潜り込んでいます。このプレートの押し合いによって地震が発生しやすい地域なのです。宮城県沖では平均37年に一度、マグニチュード7.5程度の大地震が発生しています。
(赤枠内が宮城県沖地震発生が危惧されているエリア)



このような宮城県沖地震などの大規模災害の被害を少しでも減らすための取り組みの一つとして住民参加型の防災マップ作成を進めています。

1. **県民自らが自分の身を守る(自助)**
2. **地域のみなさんと協働で自分たちの街を守る(共助)**
3. **県や市町村が震災対策を実施する(公助)**

なぜ防災マップなの？

私たちの周りには、堤防や防潮堤など、自然災害から私たちの暮らしを守ってくれる施設が整備されています。しかし、自然災害は時として、防災施設を乗り越え、私たちの暮らしに大きな打撃を与えます。



このような大災害が発生したときに私たちは何ができるでしょうか。いざという時に、少しでも被害を減らせるように、地域のみなさんと協力して防災マップづくりを進めてください。

防災マップづくりの目的は単に“地図を作る”ことではありません。地域のみなさんが一緒に防災マップを作る“協同作業”を通じて、

**地域のみなさん自身で
 地域の課題を見つけ
 地域の防災対策を決める** ことが大切なのです。

防災マップとは・・・

防災マップとは、みなさんの地域やみなさんの住宅が分かるような詳しい地図上に、防災に関するさまざまな情報を書き込んだものです。

- 例えば・・・
- 被害を受けそうな場所・・・古いブロック塀等
 - 安全な避難経路・避難場所
 - 防災に使えるような場所・施設・機材
 ・ガリソックス・貯水槽 等
 - 地域の歴史、参加者の経験
 - ちょっとしたアイデア



どうやってはじめるの！？

きっかけづくり

講演会、新聞記事、TV番組など、日常のさまざまなものがきっかけとなります。

参加者の選定

住民だけではなく、市町村職員、消防団、福祉・学校関係者、地元の事業者なども参加し、地域の課題を共有することが大切です。専門家の参加も検討してください。

話し合い・プランづくり

市町村防災担当などと相談して、進め方や準備するものを相談してください。

防災マップづくりをはじめましょう

- (1) 防災について学ぶ
- (2) 防災マップづくり
- (3) 現地確認

さあ、つくろう！！

班分け

5～10人程度、机の上に置いた住宅地図を囲めるくらい的人数で班分けをして下さい。班の中で進行役を決めてください。

地図などの準備

テーブルの上に地図を広げ、粘着テープで固定します。次に、地図の上に透明なビニールシートを広げ、これも粘着テープで動かないように固定します。

情報の書き込み

色つきペンや色つきシール、付箋紙などを上手に使って、危険な場所、安全な場所などを整理して書き込んでゆきます。例えば・・・

- 避難所などの安全な場所に緑色シールを貼る。
- 津波や洪水で浸水しそうな場所を青色で塗る。
- 土砂災害の危険箇所を黄色で塗る。
- 災害時要援護者情報の記載を地域で検討する。

成果をみんなで共有する

防災マップができたなら、みなさんで発表会をします。班毎に作成した防災マップや情報を共有し、みんなのアイデアをまとめ、地域で一枚のマップに仕上げましょう。

重要なのは、いかに安全に避難できるかということです。自宅から避難所までの安全な避難経路を確認しましょう。防災マップを作成したら、自宅から避難所まで安全に逃げられないと気づくことも有るかもしれません。

ここが大切！

【応用してみる】

地域での協働作業を行うことで、防災意識を高めることができ、地域の課題の発見ができます。更に、防災マップづくりで協働作業のやり方を学ぶことで、防犯マップなどのほかのマップや、地域のさまざまな計画づくりにも役立ちます。

【作って終わりにしない】

町の状況は日々変わります。そのため、作成した防災マップは、防災訓練などで積極的に使用し、防災マップの内容を見直してください。